

平成 22(2010)年度

事業報告書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

# 目 次

---

## I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念	.....	P 2
2. 法人及び設置学校の沿革	.....	P 2
3. 設置する学校・学部・学科等	.....	P 3
4. 学外施設	.....	P 3
5. 入学者数・収容定員・学生数	.....	P 4
6. 卒業生数・就職希望者数・就職者数・進学者数	.....	P 5
7. 学生納付金に関する情報	.....	P 6
8. 当該学校の所在地	.....	P 7
9. 役員及び教職員に関する情報	.....	P 8

---

## II. 事業の概要

1. 平成 22 年度重点課題	.....	P 9
2. 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況	.....	P11
3. その他の事業実績	.....	P13

---

## III. 財務の概要

1. 経年比較	.....	P16
2. 主な財務比率比較	.....	P18

# I. 学校法人の概要

## 1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学は、1929年の創立当初から幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成という教育理念をもち続けてきました。

それは、総合性と専門性の融合に深く留意し、「真に人間的自由に達するような美術教育」「教養を有する美術家養成」を掲げた建学の精神の堅持でもあります。

## 2. 法人及び設置学校の沿革

昭和 4(1929)年	帝国美術学校開校 (北多摩郡武蔵野町吉祥寺)
昭和 22(1947)年	造型美術学園と校名変更
昭和 23(1948)年	武蔵野美術学校と校名変更
昭和 32(1957)年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
昭和 34(1959)年	短期大学通信教育部開設
昭和 36(1961)年	鷹の台校(現鷹の台キャンパス)開設
昭和 37(1962)年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
昭和 44(1969)年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
昭和 48(1973)年	大学院造形研究科(修士課程)を開設
昭和 63(1988)年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
平成 14(2002)年	造形学部通信教育課程開設
平成 15(2003)年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
平成 16(2004)年	大学院造形研究科に博士後期課程設置 新宿サテライト開設

### 3. 設置する学校・学部・学科等

理事長 高井 邦彦

■武蔵野美術大学 学長 甲田 洋二

大学院	造形研究科	博士前期課程（修士課程）	美術専攻
			デザイン専攻
		博士後期課程	造形芸術専攻

造形学部	日本画学科	
	油絵学科	油絵専攻
		版画専攻
	彫刻学科	
	視覚伝達デザイン学科	
	工芸工業デザイン学科	
	空間演出デザイン学科	
	建築学科	
	基礎デザイン学科	
	映像学科	
	芸術文化学科	
	デザイン情報学科	

造形学部 通信教育課程	油絵学科
	工芸工業デザイン学科
	芸術文化学科
	デザイン情報学科

■武蔵野美術学園 学園長 丸亀 敏邦

武蔵野美術学園	造形芸術科
	メディア表現科

### 4. 学外施設

- ・ gallery α M（東京都千代田区）
- ・ 奈良寮（奈良市）
- ・ 清里山荘（山梨県北杜市）
- ・ 五箇山「無名舎」（富山県南砺市）
- ・ パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

## 5. 入学者数・収容定員・学生数 (2010年5月1日現在)

### ■武蔵野美術大学

#### 【大学院 造形研究科】

専攻	入学者数	収容定員	学生数
博士前期課程 美術専攻	58	56	118
博士前期課程 デザイン専攻	64	56	113
小計	122	112	231
博士後期課程 造形芸術専攻	6	18	17
大学院 総数	128	130	248

#### 【造形学部 通学課程】

学科	入学者数	収容定員	学生数
日本画学科	41	160	172
油絵学科	148	587	609
彫刻学科	35	132	143
視覚伝達デザイン学科	106	425	451
工芸工業デザイン学科	137	559	570
空間演出デザイン学科	125	500	519
建築学科	84	329	338
基礎デザイン学科	76	302	320
映像学科	87	345	374
芸術文化学科	87	323	345
デザイン情報学科	104	400	436
小計	1,030	4,062	4,277

#### 【造形学部 通信教育課程】

学科	入学者数	収容定員	学生数
油絵学科	124	980	1536
工芸工業デザイン学科	41	735	572
芸術文化学科	25	490	565
デザイン情報学科	51	735	702
小計	241	2,940	3,375
造形学部 合計	1,271	7,002	7,652

武蔵野美術大学 総数	1,399	7,132	7,900
------------	-------	-------	-------

■武蔵野美術学園

科	収容定員	学生数
造形芸術科	210	97
メディア表現科	190	43
合 計	400	140

6. 卒業生数・就職希望者数・就職者数・進学者数 (2011年3月31日現在)

■武蔵野美術大学

【大学院 造形研究科】

専 攻	卒業生数	就職希望者数	進学者数	就職者数
博士前期課程 美術専攻	58	14	1	14
博士前期課程 デザイン専攻	47	13	0	13
小 計	105	27	0	27
博士後期課程 造形芸術専攻	2	0	0	0
大学院 総数	107	27	1	27

【造形学部】

学 科	卒業生数	就職希望者数	進学者数	就職者数
日本画学科	45	13	14	12
油絵学科	147	48	35	38
彫刻学科	38	10	15	7
視覚伝達デザイン学科	114	71	1	60
工芸工業デザイン学科	140	90	13	74
空間演出デザイン学科	111	53	10	40
建築学科	71	21	16	16
基礎デザイン学科	73	44	5	32
映像学科	73	28	11	23
芸術文化学科	76	31	8	25
デザイン情報学科	97	59	5	53
小 計	985	468	133	380

武蔵野美術大学 総数	1,092	495	134	407
------------	-------	-----	-----	-----

## 7. 学生納付金に関する情報 (2010 年度)

### ■武蔵野美術大学

#### 【大学院 博士前期課程】

	前期分 (入学手続時)	後期分 (9 月)
入学金 (入学時のみ)	180,000 円	-
授業料	592,500 円	592,500 円
実習費 (コースにより異なる*)	14,750~32,750 円	14,750~32,750 円
維持費	15,000 円	15,000 円
施設費	150,000 円	150,000 円
合計	952,250~970,250 円	772,250~790,250 円

#### \*実習費 (6 か月分)

美術専攻		デザイン専攻	
日本画コース	16,500 円	視覚伝達デザインコース	19,750 円
油絵コース	26,250 円	工芸工業デザインコース	28,750 円
版画コース	26,250 円	空間演出デザインコース	14,750 円
彫刻コース	32,750 円	建築コース	14,750 円
造形理論・美術史コース	14,750 円	基礎デザイン学コース	14,750 円
芸術文化政策コース	14,750 円	映像コース	32,750 円
		写真コース	32,750 円
		デザイン情報学コース	32,750 円

○入学金は一般受験生の金額を記載。入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等を徴収。

#### 【大学院 博士後期課程】

	前期分 (入学手続時)	後期分 (9 月)
入学金 (入学時のみ)	180,000 円	-
授業料	592,500 円	592,500 円
維持費	15,000 円	15,000 円
施設費	150,000 円	150,000 円
合計	937,500 円	757,500 円

○入学金は一般受験生の金額を記載。入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等を徴収。

#### 【造形学部 通学課程】

	前期分 (入学手続時)	後期分 (9 月)
入学金 (入学時のみ)	360,000 円	-
授業料	592,500 円	592,500 円
実習費 (学科により異なる*)	14,750~32,750 円	14,750~32,750 円
維持費	15,000 円	15,000 円
施設費	150,000 円	150,000 円

合計	1,132,250～1,150,250円	772,250～790,250円
年間合計	1,904,500円～1,940,500円	
	(2年次以降 1,544,500円～1,580,500円)	

**\*実習費 (6か月分)**

日本画学科	16,500円	空間演出デザイン学科	14,750円
油絵学科 油絵専攻	26,250円	建築学科	14,750円
油絵学科 版画専攻	26,250円	基礎デザイン学科	14,750円
彫刻学科	32,750円	映像学科	32,750円
視覚伝達デザイン学科	19,750円	芸術文化学科	14,750円
工芸工業デザイン学科	28,750円	デザイン情報学科	32,750円

○入学金は一般受験生の金額を記載。入学時には別途、学生教育研究災害傷害保険料等(合計4,560円予定)を徴収。

**【造形学部 通信教育課程】**

支払区分	納入期限	選考料	入学金	授業料	合計
全納	入学時	10,000円	30,000円	285,000円	325,000円
分納	入学時	10,000円	30,000円	142,500円	325,000円
	後期	4月入学： 9月30日 10月入学： 3月31日	-	-	

○授業料は2年目以降毎年必要。別途スクーリング受講料を徴収。

## 8. 当該学校の所在地

### 鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部(通学課程)、大学院  
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

### 吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、武蔵野美術学園  
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

### 新宿サテライト(新宿教室)

〒163-0609 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階



## 9. 役員及び教職員に関する情報 (2010年5月1日現在)

■法人役員(理事 11名、監事 2名)	■評議員	25名
理事長	高井邦彦	
学長・理事	甲田洋二	
理事	稲葉直	
理事	勝井三雄	
理事	高橋陽一	
理事	長沢秀之	
理事	松家克	
理事	大坪圭輔	
理事	中川巖	
理事	宮崎晋	
理事	向山卓二	
監事	兼山金刀園	
監事	吉村徳則	
■教職員数		
専任教員	136名	
客員教授	27名	
助手	53名	
非常勤講師	641名	
教務補助員	63名	
事務系職員	198名(臨時含む)	

## II. 事業の概要

### 1. 平成 22 年度重点課題

学校法人武蔵野美術大学は、キャンパス整備計画、資金計画、大学基準協会による認証評価結果を踏まえた改善・改革等の中長期的な計画を前提として、次のとおり九つの重点課題を設定した。

#### (1) 外部資金を導入しての教育研究活動の推進

- ①平成 20 年度文科省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」の推進
- ②平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業（テーマ A）大学教育推進プログラム「造形ファシリテーション能力獲得プログラム」の推進

#### (2) 教育研究体制の充実

特別任用専任教員の任用、客員教授の充実をおこなうことなどを含め、本学の教育研究の水準にふさわしい専任教員体制の充実を図る。

#### (3) 国際交流の推進

アジア圏の大学等教育研究機関との交流を深めるとともに、留学生受入促進を図るべく、検討を進める。

#### (4) 美術資料図書館新棟の開館

美術資料図書館新棟を開館し、学生の利用に供する。

#### (5) 入試日程・制度の見直し

優れた資質を持つ人材の確保に向け、平成 23 年 2 月に実施する平成 23 年度造形学部一般入試の日程を変更する。

また、これまで造形学部一般入試の振替試験として実施してきた外国人留学生・帰国生の選抜について、特別入学試験として実施する。

#### (6) 建築計画大綱を中心とした建築事業の実施

主な工事としては次の事業を実施する。

- ①美術資料図書館旧棟改修工事
- ②1 号館外壁・屋上防水補修等工事

#### (7) バリアフリーの推進

バリアフリーへの対応として平成 23 年度以降順次進めるエレベータ設置工事の計画を策定し、平成 22 年度に 5A 号館設置の設計を行う。

#### (8) 鷹の台キャンパスの拡充

長期的な活用の安定性、当面の小平 3・3・3 号線に伴う施設移転の利便性等を踏まえ、鷹の台キャンパス近隣土地の取得を進める。

### (9) 外部・競争的研究資金獲得の促進

科学研究費補助金をはじめとした外部・競争的研究資金の獲得促進を図る。

## 2. 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況

上記の重点課題に基づく事業計画とその進捗状況は次のとおりである。

### (1) 外部資金を導入しての教育研究活動の推進

#### ①平成 20 年度文科省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」の推進

近代デザイン研究プロジェクト、映像研究プロジェクト、民俗造形研究プロジェクトの各プロジェクトを計画どおり推進し、進行状況及び研究成果の報告を行い、文科省による審査の結果「A」の評価を得た。

#### ②平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業（テーマ A）大学教育推進プログラム「造形ファシリテーション能力獲得プログラム」の推進

本プログラムと直接連動する授業科目である「美術と福祉プログラム」(教職総合演習 I)に加え、平成 22 年度には新規の授業である「ワークショップ実践研究」を開講した。11 月にはワークショップ発表会を、学生グループによる実践活動報告会として実施した。また、1 月末には本学新宿サテライトで「造形ファシリテーション展示会・シンポジウム」を開催した。これらの活動のほか、10 月及び平成 23 年 1 月に開催した外部評価委員会の内容等も含め、3 月に 2010 年度報告書を作成した。更に、これまでの学内の造形ワークショップの蓄積と、本年度の活動のとりまとめとして概説書「造形ワークショップの広がり」を武蔵野美術大学出版局より刊行した。

### (2) 教育研究体制の充実

#### ①特別任用専任教員の採用

専任教員の多様な任用形態を可能にする制度である「武蔵野美術大学特別任用専任教員規則」に基づき、平成 22 年 4 月 1 日付で特別任用専任教員 1 名が着任、さらに平成 23 年 4 月 1 日付 5 名の採用を決定し、専任教員体制の充実を図った。

#### ②客員教授の拡充

平成 19 年度 13 名、平成 20 年度 18 名、平成 21 年度 23 名と充実を図ってきたが、平成 22 年度には 27 名と一層の陣容拡充を進めた。

### (3) 国際交流の推進

平成 19 年度より 3 年間実施された現代 GP・EDS デザイン竹プロジェクトにおいて、ワークショップ及び展示を実施し、その後も両大学の教員が訪問を重ね交流を深めてきたバンドン工科大学（インドネシア）と交流協定を締結した。また、平成 14 年に協定を締結、これまで教員交流を中心に着実に

交流を積み重ねてきた弘益大学（韓国）と、アジア圏の大学等教育研究機関とは初めての取り組みとなる学生交換に関する覚書を交わした。

#### (4) 美術資料図書館新棟の開館

創立 80 周年記念事業の一貫として計画され、「武蔵野美術大学 2004-2009 建築計画大綱」に掲げられた、新図書館（総面積 5,549 m<sup>2</sup>、地下 1 階、地上 2 階）が 6 月 10 日に全面オープンした。

#### (5) 入試日程・制度の見直し

優秀な志願者確保を目途とし、平成 23 年度入試より造形学部一般入試の日程を 2 月 3 日～13 日に変更、またこれまで一般入試の振替試験として実施してきた外国人留学生・帰国生の選抜について、編入学試験・転科試験の実施時期（12 月下旬）に特別入試として実施した。一般入試の志願者数は対前年比 3.2%減と依然減少はしたものの、他大学と比較しても減少率は低く、過去 2 年間連続した大幅な減少傾向（約 15%）に歯止めを掛けた。また、外国人留学生・帰国生特別入試では、対前年一般入試・振替試験志願者数比較 62 名、46.6%の増となる 195 名の志願者を集めた。

#### (6) 建築計画大綱を中心とした建築事業の実施

美術資料図書館旧棟改修工事を完了し、3 月末新美術館が竣工した。

その他、1 号館外壁全面・屋上防水補修等工事が 7 月に完了、また、これまで順次進めてきた屋内既存老朽配水管更新工事について、7 号館及び 8 号館工事を完了した。

#### (7) バリアフリーの推進

バリアフリー対応として平成 23 年度以降順次進める計画であり、平成 23 年度 5A 号館での先行実施を予定していたエレベータ設置工事について、平成 23 年度実施設計、平成 24 年度工事と 1 年延期することとした。

#### (8) 鷹の台キャンパスの拡充

長期的な活用の安定性、当面の小平 3・3・3 号線に伴う施設移転の利便性等を踏まえ、土地（小川町 1 丁目区画整理組合保留地など 1,604 m<sup>2</sup>）を取得した。

#### (9) 外部・競争的研究資金獲得の促進

平成 21 年度新規申請 9 件、うち採択 2 件であった科学研究費補助金について、平成 22 年度は申請 14 件、採択 2 件であった。

なお、本学の平成 22 年度国庫補助金は私立大学経常費補助金一般補助・特別補助合計 7 億 1,678 万円（昨年度比 941 万円減）で、研究設備整備費等補助金、施設整備費補助金、大学教育・学生支援推進事業（テーマ A）大学教育推進プログラムの補助金を含めると 8 億 8,319 万円（昨年度比 3 億 1,253 万円減）となった。

### 3. その他の事業実績

#### (1) 現行教育課程の検討

カリキュラム委員会より、平成 15 年度にスタートした現行教育課程の成立経緯に関する検証及び現状把握、問題点について平成 21 年度末に中間報告が提出されていたが、平成 23 年 3 月 28 日に改善点に関する提案を主な内容とする答申が学長に提出された。

#### (2) 教員免許状更新講習の実施

文科省における更新講習制度の継続実施に不確定要素が多かったことを踏まえ、平成 22 年度は対面講習を行わず、必修領域（教育の最新事情に関する事項）及び選択領域（教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項）ともに通信講習のみ実施した。その結果、必修領域受講生 75 名、修了生 68 名、選択領域受講生 76 名、修了生 70 名であった。

#### (3) デザイン戦略的拠点開設に向けて

平成 24 年 1 月に本学のデザイン戦略的拠点を開設することを目途に、六本木の東京ミッドタウン・デザインハブの一角を 3 年間賃借することとした。共同研究・受託研究などの教育研究プロジェクトによる企業等との連携促進、先端的デザインの発表の場とするなど、本学デザイン教育研究活動の情報発信推進を図るための拠点とする。

#### (4) 美術系大学連絡協議会の設立

平成 21 年 10 月本学 80 周年記念事業の一環として開催した世界美術大学学長サミットに集った、本学、女子美術大学、多摩美術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部、東京芸術大学により、文化芸術及び美術教育の意義と必要性について、国民の理解を広げ、その理念の普及を図ることを目的として、美術系大学連絡協議会が本学の発意により設立された。

#### (5) 東日本大震災罹災学生への経済的支援

東日本大震災発生後に学費負担者が災害救助法適用地域に居住する学生（入学予定者を含む）への支援を決定し、学生の安否・被害状況の確認を経て、罹災した 4 名の在学生に対し、緊急対応奨学金を支給した。

#### (6) 各部の取組

##### <企画部>

- ① 第 4 期自己点検評価委員会において大学院をテーマに点検・評価を実施し、3 月末理事長・学長に報告書を提出した。
- ② 校友会との共催により、11 月に地域フォーラムアート&デザイン 2010 金沢「そとからうちから金沢ヌーボー」を、また昨年続く第 2 回「小平をのこすっ！～スケッチワークショップ」を小平市、津田塾大学の協力を得て開催した。
- ③ 6 月に『武蔵野美術大学のあゆみ 1929-2009』を平成 22 年度新入生保護者へ送付した。
- ④ 平成 22 年 12 月に大学史史料第八集「金原省吾日記」及び『Archive&Archives』3 冊を刊行した。
- ⑤ α M プロジェクトについて、千代田区東神田の gallery α M において「複合回路」を年間 6 回の企画展

として開催した。

- ⑥ 産官学受託研究 9 件を実施した。
- ⑦ 8 月東京ビッグ・サイトで開かれた「グッドデザイン・エキスポ 2010」のデザイン・コミュニケーションに出展した。

#### <総務部>

- ① 図書館新棟に機械警備システムを導入し、キャンパスセキュリティーの向上を進めた。
- ② メンタルヘルスコンサルタントと顧問契約を締結し、外部健康相談窓口を設置した。
- ③ 7・8 号館について屋内既存老朽配水管更新工事を実施した。
- ④ 福利厚生施設の一つである奈良寮について浴室増築工事を実施した。
- ⑤ 都道 3・3・3 号線の計画にかかる行政との折衝、仮称 工房・デザイン研究棟に関する基本設計業務、所管庁との事前協議を進めた。
- ⑥ ネットワーク環境整備（無線 LAN 設備、吉祥寺キャンパス幹線整備等）について、鷹の台校無線 LAN 機器の最終設定及び工房等整備を残し、ほぼ完了した。
- ⑦ 平成 23 年 4 月 1 日改正に向け、経理規則並びに固定資産及び物品管理規則の改正案を策定した。

#### <教務部>

- ① 平成 22 年 9 月より新教務事務システムの稼働を開始し、22 年度については旧システムとの併用により運用を行った。
- ② 初年時教育等の教育課程のあり方についてカリキュラム委員会を中心として検討を行い、平成 23 年 3 月学長に答申した。
- ③ 平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業（テーマ A）大学教育推進プログラム「造形ファシリテーション能力獲得プログラム」2 年目として、21,850 千円の補助金を獲得した。

#### <学生部>

- ① 4 年ごと定期的に行っている学生生活実態調査を 9 月に実施し、次年度の報告書作成に向けてデータ集計、分析を進めた。
- ② 臨床心理士による相談日のうち月・木の二日間を相談員二人体制に増強し、緊急に相談を希望する学生への対応を充実した。
- ③ 受験生にとって奨学金の採用状況が高い関心を集める状況を踏まえ、限られた原資をより効果的に配分するために武蔵野美術大学奨学金の贈与額及び採用数見直しの検討を進めた。
- ④ 教務事務システムの改修に合わせて、奨学金システム、健康管理システムを改修し、運用を開始した。
- ⑤ 美大生の就職活動において重要なツールであるポートフォリオの作成支援として新たに支援プログラムを立ち上げ、その一環として 12 月にポートフォリオ展示会を開催した。
- ⑥ 教務事務システムの改修に合わせて、就職システムの改修が完了し、新 3 年生から稼働することにした。
- ⑦ 卒業直前で就職未定の学生を対象にハローワークからの支援内容説明会を、翌日には 1 日当たり 5～6 の企業を招いたブース説明会を実施した。
- ⑧ 設置基準の改正に伴い平成 23 年度から正課授業に導入が義務化されたキャリア教育について、進路指導専門委、教学委での時間を掛けた議論を踏まえ、平成 23 年度後期から 1 講座の開講を決定した。

### <通信教育課程>

- ① 通信教育課程の志願者に対する広報活動について新たに携帯電話のモバイルサイトを導入し、入学広報の推進を図った。また、通信ウェブサイトにはランディング・ページを導入することにより、広報活動に活用できるよりきめ細かい情報が収集できるように改善を図った。
- ② 平成 23 年度からの使用教科書 3 冊、「レポートの教室」（一部改訂版）、「新版 電腦の教室」（全面改訂版）、「未来の教師におくる特別活動論」（全面改訂版）の 3 冊を刊行した。
- ③ 平成 22 年度卒業制作展を 3 月 12 日(土)～15 日(火)の 4 日間、鷹の台校において開催する予定であったが、東日本大震災の発生に伴う安全面への配慮から 13 日のみの開催とした。入場者数は 319 名であった。

### <美術館・図書館>

- ① 旧棟美術館棟改修に先立ち、全所蔵美術作品のうち 5000 点を学外美術品専用倉庫に避難させ、年度内の保管に万全を尽くした。
- ② 展覧会関連事業として退任教授作品展 3 本、新棟図書館棟展示室での博物図譜のデジタルアーカイブ展 2 本、卒業・修了制作優秀作品展、絵雑誌展など 9 本の企画展を開催した。
- ③ 美術館作品管理システム「ミュージズテーク」による画像データベースの設計開発を完了し、12 月学内に公開した。ポスター資料 5,500 件の集中的なデータ遡及を完了した。
- ④ 民俗資料についてドミノシステム上に 6,500 件の画像データ化を図り、計 15,600 件の学内公開を計画、構築を進めた。
- ⑤ 美術資料管理システム「ミュージズテーク」と連動した作品管理システム「IC タグ」のポスター作品への装備を推進した。
- ⑥ 美術資料管理システム「ミュージズテーク」と図書資料管理システム「アイリスウェブ」を連携する「横断検索システム」の設計開発を完了し、12 月に学内公開（試験導入）した。
- ⑦ 4 月より図書館カウンター業務の一部を業務委託に移行し、人件費削減、業務の効率化、職員の専門性の明確化などを図った。
- ⑧ 図書館システムのリプレイスについて計画どおり富士通図書館パッケージの導入を完了し、サービス向上を図った。
- ⑨ 新棟図書館における I C チップ導入による図書管理システムについて、計画どおり完了した。
- ⑩ ブックタッチ、無線 LAN、ラーニングコモンズなど I T を活用したユビキタスな環境を計画通り整備した。

### <国際センター>

- ① 交換留学（受け入れ 7 名、送り出し 5 名）の実施、訪問教授 7 名の招聘、外国人研究員 3 名の受け入れ、年間 17 件の来訪者対応など海外との交流を進めた。
- ② パリ賞 2 名を委員会において選考し、パリ国際芸術都市に派遣した。
- ③ 学内の各研究室が行う国際的な教育活動に対する国際交流プロジェクト（6 件）及び学生による交流企画プロジェクト（3 件）に対し、経費を補助した。また、協定校プロジェクト（3 件）、教員交換交流（受け入れ 1 件）を実施した。
- ④ 海外向け広報用ツールとして簡易版英語大学案内を制作した。また、ホームページにおいても交換留学生のレポートを掲載するなど充実化を図った。

- ⑤ 政府開発援助費からの留学生授業料に対する補助金が平成 22 年度からの廃止となったが、本学負担による私費留学生授業料減免制度を継続実施した。
- ⑥ 留学生の日本語教育充実に向け、言語文化研究室、教務課と調整を図り、日本語科目の見直し、指導体制の強化を進めた。
- ⑦ 6 月に開催したオープンキャンパスに国際センターとして初めて参加し、本学現役留学生と入学希望留学生との交流の場を設けた。
- ⑧ 多摩アカデミックコンソーシアム (TAC) の国際部門準備会を本学の呼びかけにより立ち上げ、3 回の会合を開催した。

#### <広報入学センター>

- ① 予算の効果的な活用の観点から、広報印刷物の改編による情報の整理再編と印刷経費の削減を進めるとともに、大学 Web サイトの更なる充実を図った。
- ② 大学 Web サイトについて情報の整理・再編とデザインの統一、更新手続きの簡素化を進め、リニューアルした。刷新後は、大学 Web サイトの年間平均 PV (ページ閲覧数) が約 3 倍に増加した。
- ③ テレビ番組「大学を知ろう」を 22 年度も制作、BS 日テレにて放映され、その後大学 Web サイトにおいて公開するとともに、DVD 化して進学相談会等の来場者に配付した。
- ④ オープンキャンパス、進学相談会 (東京会場)、芸術祭などの様子をビデオ撮影し、Web サイトで公開した。
- ⑤ オープンキャンパス、進学相談会時アンケートの提出と引き換えに入試問題集を無料配付し、資料請求者管理システムの見直しと合わせ、来場者データの活用を進めた。
- ⑥ 各種入試ごとに個別に作成していた募集概要を一本化し、新たに入試ガイドを刊行した。
- ⑦ 従来の MAUnews を mauleaf と改称、版型を変更し、外注化とともに、編集スタッフとして学生の参加を得て制作した。
- ⑧ 22 年度中の高校への出張説明会・模擬授業は 128 件 (うち模擬授業 22 件) 実施、予備校での説明会は 22 件実施した。高校出張説明会、予備校の件数は前年より十数件増加している。またこのほか、本学での見学案内 (高校等からの訪問) は 28 件対応している。
- ⑨ 造形学部空間演出デザイン学科、基礎デザイン学科において公募制推薦入学試験を導入し、入試の多様化を図った。



### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 経年比較

##### (1) 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末	本年度末
固定資産	33,894,715	35,057,999	36,733,419	37,412,544	38,433,910
流動資産	9,091,492	8,915,232	7,685,281	8,448,162	7,760,294
資産の部合計	42,986,207	43,973,231	44,418,700	45,860,706	46,194,204
固定負債	1,818,255	1,805,471	1,783,072	1,792,368	1,781,796
流動負債	2,862,937	2,565,476	2,520,857	2,608,621	2,595,585
負債の部合計	4,681,192	4,370,947	4,303,929	4,400,989	4,377,381
基本金の部合計	36,223,002	37,695,499	39,521,903	40,353,424	41,330,381
消費収支差額の部合計	2,082,013	1,906,785	592,868	1,106,293	486,442
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	42,986,207	43,973,231	44,418,700	45,860,706	46,194,204

##### (2) 収支計算書

##### ① 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,371,651	8,416,734	8,416,395	8,415,562	8,421,425
	手数料収入	281,461	340,409	302,336	262,129	252,414
	寄付金収入	130,956	107,092	97,513	100,758	82,173
	補助金収入	705,718	849,207	839,342	1,196,086	889,305
	資産運用収入	144,760	207,501	131,423	64,548	42,110
	資産売却収入	0	0	9,419	0	0
	事業収入	39,249	39,639	37,952	34,417	47,003
	雑収入	151,479	343,316	330,493	275,706	157,519
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,926,422	1,919,629	1,951,545	1,975,520	1,994,292
	その他の収入	2,386,112	1,498,829	1,549,124	1,552,561	793,856
	資金収入調整勘定	△ 2,080,046	△ 2,307,672	△ 2,250,954	△ 2,631,636	△ 2,267,232
	前年度繰越支払資金	8,077,737	8,429,074	8,152,840	7,101,911	7,470,978
	収入の部合計	20,135,499	19,843,758	19,567,428	18,347,562	17,883,843
支出の部	人件費支出	4,727,607	4,974,171	4,982,941	4,902,031	4,728,373
	教育研究経費支出	2,329,653	2,373,263	2,874,247	2,348,922	2,868,412
	管理経費支出	700,058	755,831	808,546	876,966	872,086
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	2,757,569	2,000,288	2,649,264	1,773,489	1,580,638
	設備関係支出	459,587	315,667	214,529	693,302	552,167
	資産運用支出	861,333	1,055,582	997,123	324,296	73,104
	その他の支出	696,502	878,506	557,232	522,203	562,470
	資金支出調整勘定	△ 825,884	△ 662,390	△ 618,365	△ 564,625	△ 548,166
	次年度繰越支払資金	8,429,074	8,152,840	7,101,911	7,470,978	7,194,759
	支出の部合計	20,135,499	19,843,758	19,567,428	18,347,562	17,883,843

②消費収支計算書

(単位:千円)

科 目		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	本年度
消費収入の部	学生生徒等納付金	8,371,651	8,416,734	8,416,395	8,415,562	8,421,425
	手数料	281,549	340,889	302,336	262,129	252,414
	寄付金	292,782	109,674	103,729	125,156	84,469
	補助金	705,718	849,207	839,342	1,196,086	889,305
	資産運用収入	144,760	207,501	131,423	64,548	42,110
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	39,249	39,639	37,952	34,417	47,003
	雑収入	151,479	343,316	330,493	275,706	157,519
	帰属収入合計	9,987,188	10,306,960	10,161,670	10,373,604	9,894,245
	基本金組入額合計	△ 1,529,402	△ 1,472,498	△ 1,826,403	△ 831,522	△ 976,957
	消費収入の部合計	8,457,786	8,834,462	8,335,267	9,542,082	8,917,288
消費支出の部	人件費	4,680,181	4,961,387	4,960,542	4,880,694	4,699,560
	教育研究経費	3,010,383	3,176,710	3,701,820	3,171,973	3,832,588
	管理経費	776,232	844,088	907,416	972,525	978,023
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	資産処分差額	39,474	27,505	79,406	3,465	26,968
	徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
	消費支出の部合計	8,506,270	9,009,690	9,649,184	9,028,657	9,537,139
当年度消費収支超過額	△ 48,485	△ 175,228	△ 1,313,917	513,425	△ 619,851	
前年度繰越消費収支超過額	2,130,498	2,082,013	1,906,785	592,868	1,106,293	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越消費収支超過額	2,082,013	1,906,785	592,868	1,106,293	486,442	

## 2. 主な財務比率比較

消費収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系19法人の平成21年度の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成22年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	本年度	(単位:%) 芸術系 学部平均
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	14.8	12.6	5.0	13.0	3.6	3.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	83.8	81.7	82.8	81.1	85.1	78.1
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	2.9	1.1	1.0	1.2	0.9	0.7
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	7.1	8.2	8.3	11.5	9.0	10.5
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	46.9	48.1	48.8	47.0	47.5	55.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	30.1	30.8	36.4	30.6	38.7	28.7
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	7.8	8.2	8.9	9.4	9.9	10.1
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	15.3	14.3	18.0	8.0	9.9	8.4
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	8.7	9.7	9.7	10.2	11.0	11.4
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	55.9	58.9	58.9	58.0	55.8	71.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	100.6	102.0	115.8	94.6	107.0	105.0

貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	本年度	(単位:%) 芸術系 学部平均
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	89.1	90.1	90.3	90.4	90.5	89.3
消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	4.8	4.3	1.3	2.4	1.1	-2.7
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	88.5	88.5	91.6	90.2	91.9	99.1
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	84.5	84.7	87.7	86.5	88.2	92.8
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	78.9	79.7	82.7	81.6	83.2	88.4
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	48.2	50.4	54.1	56.6	58.4	56.3
その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	30.6	29.4	28.6	25.0	24.8	32.1
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	21.1	20.3	17.3	18.4	16.8	11.6
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	317.6	347.5	304.9	323.9	299.0	244.5
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	67.8
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	4.2	4.1	4.0	3.9	3.9	6.0
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	6.7	5.8	5.7	5.7	5.6	4.7
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	10.9	9.9	9.7	9.6	9.5	10.7
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	12.2	11.0	10.7	10.6	10.5	12.0

(※) [評価] ↗ : 高い値が良い    ↘ : 低い値が良い    — : どちらともいえない  
 総資金=負債+基本金+消費収支差額    自己資金=基本金+消費収支差額